

①大学院 1 年の野本泰洋と申します。研究室は熱帯園芸学研究室に所属しています。今日は長期履修制度を利用した青年海外協力隊の参加について発表したいと思います。長期履修制度を聞いたことある人いますか？

②長期履修制度は通常大学院の博士前期課程は 2 年なのですが、仕事などの理由で 2 年で卒業できない場合に長期にわたって、履修する制度です。私はこの制度を使って大学院に在籍しながら、青年海外協力隊に参加しようと思っています。スケジュールはこんな感じです。この制度を使うと、協力隊の派遣までの間を大学院での活動に充てられるので、大学院と協力隊を両方行く場合は時間短縮になります。また大学院で学んでることを、現地で生かすことが出来、また現地で学んだことを踏まえて、帰国後に研究が出来ると考えています。

③私が行くところは、南アフリカに位置するザンビアというところに、野菜隊員としていきます。面積は日本の約 2 倍で、人口は約 1 / 7 で、人口密度が小さいです。

④行き先は北部州カサマ市です。言語はベンバ語です。

⑤ザンビアでは農業が主産業です。2016 年の農業生産量をみると、サトウキビに次いでメイズが重要な作物であることが分かります。

⑩メイズは干ばつの年は収量が大きく減少します。メイズ栽培の 79% を小規模農家が占めていますが、メイズは大量の灌漑水と肥料を必要とするため、干ばつと肥料不足のため、メイズの単一栽培は大きなリスクを抱えています。

⑪このような背景から私の研究目的はメイズの代替作物を導入しリスクを減らし、農家の収入を増やすことです。

⑫調査地の半分はアクリソルという風化が進み肥料成分が失われた、酸性の土壌です。野菜栽培を持続的に行うためには、有機物を施用し土壌酸性を改良する必要があります。

⑬そこで現地で調達可能な材料でぼかし肥料を作って、農地に入れて緩効性肥料として利用して問題解決することを計画しています。

⑭学部生の時に経験しておいてよかったと思うことは、JA 富良野のファームステイです。皆さんも貴重な時間を様々な経験を通して充実した学生生活を送ってください。